

Top Interview

— 変革に挑む —

まとめ/堀水潤一 撮影/沼尻淳子

横浜実践看護専門学校 校長 山川美喜子 (看護師養成施設指定申請中)



2014年、新横浜に開校予定。 グループ各校と連携し 「実践力」を備えた看護師を養成する

患

者さんに「よい看護師とは？」と尋ねると「優しい人」と、皆さん答えられます。単に物腰がやわらかいという意味ではありません。例えば、手を握り「大丈夫ですよ」と言ってくれることで生じる安心感や、自分のことのように親身になれる責任感。そうした、知識や技術に裏打ちされた優しさや思いやりがあつて初めて、よい看護師と呼ばれるのだと思います。

学校法人岩崎学園が、2014年に開校する横浜実践看護専門学校では、その名の通り実践的な臨床実習を通して、そうした看護師を育てます。

本校は、臨床現場さながらの演習環境を整えます。例えば演習用の成人ベッドは、学生2人に1台を用意。シミュレー

ターモデルを使ったシミュレーション演習にも力をいれます。

また、岩崎学園グループには、リハビリテーション、医療情報、情報科学、保育福祉分野の各専門学校があり、これら姉妹校と連携することで、チーム医療の一員としての看護師という職種への理解を深めるとともに、IT化が進む医療現場にも対応します。さらに、グループの保育園や幼稚園とも交流を深めていきます。

臨床現場の国際化に対応できるよう看護の視点から国際理解教育も推し進めていくつもりです。私は助産師としてサウジアラビアで9年間働いた経験があります。現地の生活では文化や価値観の違いを痛感しました。その経験を踏ま

え、本校でも台湾での海外研修を予定しています。現地の看護学校や医療施設を訪れ、学生と交流することで、刺激を受けてもらいたいと思います。

優しさや思いやりは、演習や実習だけではなく、日々の学校生活すべてにおいて育まれるものです。なかでも、学生同士が協力し、支えあう学校行事は絶好の機会。横の繋がりがだけでなく、先輩と後輩といった縦の繋がりが大切だと思います。

人の学力に大きな違いがあるとは思えません。まして国家試験がありますから、一定の知識や技術水準には全員が到達するわけです。それよりも人間性や積極性、コミュニケーション能力といったもののほうが看護師として生きていくうえで重要だと考えています。

看護教育は人間教育。看護学校は自分自身が成長できる場所です。高校生からはよく「高校時代に何をしておくべきか？」と質問されます。皆さん卒業のことばかり気にされますが、まずは日常をきちんと過ごしていただきたいと考えています。規則正しく生活するとか、部活動で自分の役割を果たすとか、友人ときちんと対話をするとか。そうした日々を大切にすることが将来に直結していると思います。

【校長プロフィール】やまかわ・みきこ ●1947年生まれ。東京大学医学部付属看護学校卒業。同助産師学校卒業。91年厚生労働省看護研究研修センター看護教員養成修了。95年明星大学人文学部心理教育学科卒業。東京大学病院で看護師、助産師として臨床経験後、サウジアラビア王国の病院で助産師として9年間勤務。88年に帰国後、看護専門学校で看護師養成に携わる。

【学校プロフィール】学校法人岩崎学園グループの専門学校として2014年4月に開校予定。看護学科(3年課程)。入学定員1学年男女80人。JR新横浜駅北口より徒歩3分。